

文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創
2022 年度採択研究代表者

2022 年度
年次報告書

石川 翔吾

静岡大学 大学院情報学領域
講師

Well-being 最大化のための個性適応型目標創生

研究成果の概要

本研究では、認知症ケアという重要な社会的課題において、①主観的・客観的個性表現モデルの構築という情報科学的な研究とともに、②Well-being 最大化に向けたパーソナライズされた目標の創生に関するシミュレーション技術を開発することで根拠に基づいたケアの仕組みを構築し、質・生産性の高い介護の実現を目指している。R4年度の半年間では、目標創生シミュレーション技術開発のためのデータ収集、Well-being に関する理論的整理、そして、認知症の支援の質向上のためのPX体験空間の設計と予備実験を実施した。

データ収集サイトとして、日本における先駆的な介護を実践している施設に協力を仰ぎ、都市部3施設、地方4施設からデータ提供について協力関係を構築した。目標創生技術に活用するためには、ケアプラン、アセスメント、モニタリング、日々の記録情報が連動している必要があるが、施設によってデータの記載方法にばらつきが大きく、さらに紙の記録も多いため効率的なデータ収集方法を構築して進める。

障害当事者や医療・介護従事者とのワークショップを通して、ポジティブ心理学、Affective Computingにおける知見を統合し、生活全体の中にWell-beingを位置付け、病気、ADL、Well-beingの関係で整理することで、当事者の生活状況スペクトラムを時系列で把握するWell-being評価フレームワークを設計した。

PX体験空間をメタバース上に実装し、認知症のさまざまな認知的感覚について体験するための学習体験のプラットフォームを構築した。加賀市との共同研究と連動させてpreliminary studyを実施し、加賀市の介護・医療職24名がPX体験空間の実験に参加し、行動の背景を紐解きながら、共感的な態度につながるのかを調査した。その結果、共感性の向上や参加者からポジティブな意見が得られ、今後推進していく上で本アプローチが有効であることが明らかとなった。